デロイト トーマツ コンサルティング Region Unit

西日本を創る、世界を拓く。あなたと共に―

人材確保と育成、技術革新とデジタル化への対応などたくさんの変化と挑戦が待ち受ける西日本。
デロイト トーマツ コンサルティング Region Unitは、既存事業の維持・成長だけでなく、新事業創出・海外展開など企業の皆様が抱える課題を一番近くで解決し、経済の発展にサポートしてまいります。

プロフェッショナル

多様なメンバーが西日本のお客様を強力にサポートします。

Region Unit 長　執行役員
田中 宏明

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社（以下、DTC）は、デロイトの一員として日本のコンサルティングサービスを担い、提言と戦略立案から実行まで一貫して支援するファームです。クライアントの持続的で確実な成長を支援するコンサルティングサービスはもちろん、社会課題の解決と新産業創造でクライアントと社会全体を支援しています。
その中でRegion Unitは、西日本地域を担当する組織として大阪・京都・福岡に他社に先駆けて拠点を設け、腰を据えて西日本圏の企業や公的機関と向き合って活動を続けてきており、いまでは数多くの地域を代表する企業・自治体と強い信頼関係を築くに至っています。
Region Unitにはさまざまなバックグラウンドを持つ専門家が数多く在籍し、日々クライアントや仲間とともにイノベーティブなアイデアや価値創出に取り組んでいます。
西日本に生活基盤を持ちながら、それぞれの経験を活かしてさまざまなテーマのプロジェクトにチャレンジし、成長できる最高の環境があると自負しています。
当地域で経営コンサルティングにご関心がある方、ぜひRegion Unitでともに切磋琢磨しましょう！

就活生・転職者の方へ

Region Unitでは、多様な人材から成る個性豊かな組織が、ひいては豊かな発想と質の高い業務につながるという理念のもと、メンバー一人ひとりが自分らしいキャリアを形成していける環境が整っています。

新卒採用情報　キャリア採用情報

グループ案内

データで知る！Region Unit

Career in Region Unit

グループ案内

Region Unit的キャリアの作り方

グループ案内

これまでのキャリアを西日本で活かす

グループ案内

Region Unitで描く新卒入社後のキャリア

グループ案内

Globalに働く① - 西日本から世界へ！

グループ案内

Globalに働く② - 世界から日本へ！

Work & Life in Region Unit

グループ案内

DTC Region Unitに所属するとあるコンサルタントの1日

グループ案内

DTC Region Unitでの多様な働き方

グループ案内

コンサルタントと子育ての両立

グループ案内

支えあうTask Force(TF)、つながる部活動

拠点

TEAM EXPO 2025

わたしたちは、大阪・関西万博
— TEAM EXPO 2025 —
プログラムに参加しています

万博特設ページ

採用ページへ戻る

データで知る！Region Unit

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

DTC全社については知られていても、規模やメンバーのバックグラウンドなど、
まだまだあまり知られていないRegion Unitの実態をご紹介します。

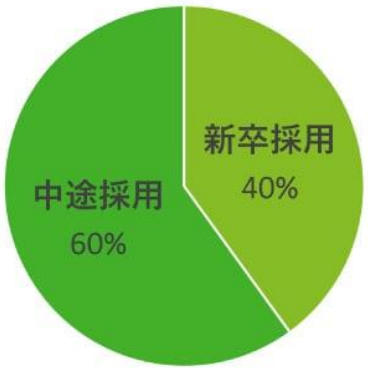
幅広いインダストリー×オファリングによる価値提供

Region Unitでは、製造業・金融・地方自治体などのインダストリー（業界）と、戦略・IT・人事/組織などのオファリング（業務）、それぞれの専門性を持ったコンサルタントが強みを活かしながら活躍しています。インダストリー・オファリングの異なる社員がコラボレーションし1つのチームとして機能していることもRegion Unitの特徴です。

オフィス開設から約20年---。西日本に根差して動くメンバーは150人以上に

デロイト トーマツ グループと西日本経済とのつながりは、1968年の青木・等松監査法人設立に遡ります。DTCでは1990年代に大阪、福岡オフィス、2000年代の京都オフィス開設を経て、2000年代にはRegion Unitとしてのサービス提供へと進化してきました。
西日本でのサービス拡充に合わせて、メンバーも増え続け、2023年には150人以上のコンサルタントが活躍しています。

新卒も中途メンバーも活躍。多様な経歴、業界・業種出身のメンバーが在籍



出身学部

工、経済、法、外国語、商、農、経営、文、理、理工、他

出身業界

コンサルティングファーム、製造（電気、自動車、食品など）、通信、IT、人材サービス、製薬、官公庁・自治体、他

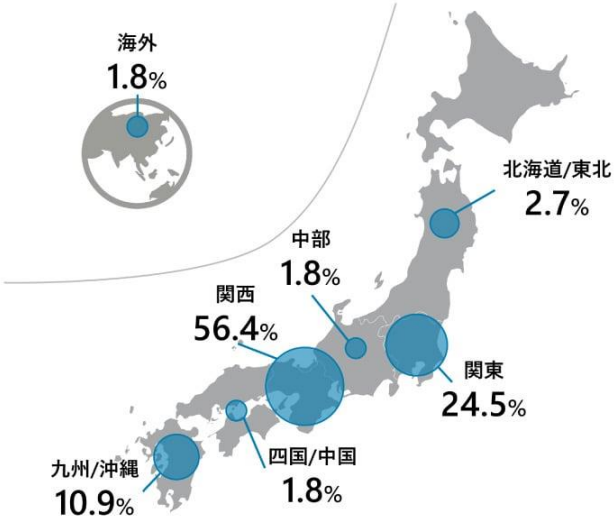
経験職種

営業、経営企画、研究開発、システム開発、人事、他

Region Unitでは、新卒／中途はもちろん、新卒は文／理を問わない出身学部から、中途ではコンサルタントだけでなくIT／通信／人事/製造業などの色々な業界・職種から、多種多様なスキル・経歴のメンバーが集結しています。
多様性のあるメンバーがそれぞれ活躍し協同することで、西日本における様々な経営・社会課題の解決に日々全力を尽くしています。

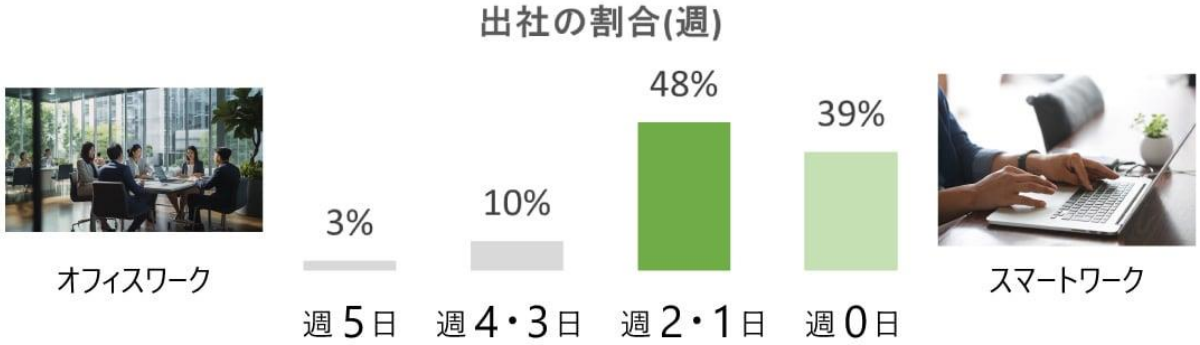
全国各地から様々な専門分野を持った人材が集結

Region Unitには、関西・九州地区だけでなく、全国各地からコンサルタントが集結しています。IターンでRegion Unitに所属するメンバーも多く、地域に根差したコンサルティングサービスを提供したいプロフェッショナルが活躍できる環境です。



オフィスワークとスマートワークを組み合わせた多様な働き方

Region Unitでの働き方はプロジェクト次第で異なり、毎日オフィスワークのプロジェクトから毎日スマートワークのプロジェクトまで様々です。またDTCのオフィスに限らずクライアント先のオフィスへの出社や地方の拠点に出張することもあります。オフィスには在宅や他拠点のメンバー・クライアントとWeb会議を行うためのテレフォンブースや、集中して作業するための専用スペースが設けられており、快適に利用することができます。



産休・育休の取得や介護のための時短勤務も。柔軟な働き方を選択可能

Region Unitは、ユニット長をはじめ、20-40歳代が多い比較的若い組織です。これらの年代は、出産・育児、介護などさまざまなライフイベントを迎える年齢でもあります。そこでRegion Unitでは出産・育児しながら働く女性コンサルタント、育児休暇を取得する男性コンサルタント、家族の闘病に合わせて時短勤務で働くコンサルタントなど、様々な事情を抱え働くコンサルタントのためにワーキングプログラム（WP）という休暇・時短勤務制度が用意されています。Region UnitにおけるWP希望者の実際の取得率はほぼ100%。自分に合った働き方を選択できる環境が整っています。

実際にRegion Unitではどのようなコンサルタントが活躍しているでしょうか？ぜひこちらの記事もご覧ください！

- 海外案件で活躍、女性コンサルタントのHさん
  globalに働く① - 日本から世界へ！
- インド出身、男性コンサルタントのAさん
  globalに働く② - 世界から日本へ！
- コンサルタントの仕事と子育てを両立、Mさん・Wさん
  コンサルタントと子育ての両立

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

Region Unit的キャリアの作り方

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

目指すキャリアは人によって、そして個人の成長の過程でも変化します。現在、IT/IoT・新規事業開発関連のプロジェクトを中心にシニアマネジャーとして活躍するOさん（2012年中途入社）が、変化する自身の志向に合わせて、西日本を拠点にでどのようにキャリアを形成してきたのか、お話を伺いました。

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

― DTCに入社されるまでの経緯を教えてください

O. 入社前は通信業界で働いており、領域に捉われず、個人としてスキルを伸ばしたいと考えたのが転職のきっかけです。当時は東京を拠点としていましたが、家庭の事情で関西に転居することになったタイミングでもありました。

― 入社後は、どのような案件を経験されてきたのでしょうか？

O. 領域にこだわりはなかったものの、漠然とグローバル案件をやってみたいと考えていたところ、入社直後からグローバル人事案件を担当することになりました。コンサルタント・シニアコンサルタント時代は、M＆Aや業務改革案件など様々な案件に携わりました。

Consultant	Senior Consultant	Manager	Senior Manager
グローバル人事PMI、海外販売プロセス改善などグローバルプロジェクトを中心に活躍	メーカーの業務改革プロジェクトに従事したのち、事業戦略プロジェクトを担当。新規事業開発への関心が高まる	市場調査から戦略策定、M&Aなど新規事業の立案・実行をリード。ニーズを引き出すべく、積極的にクライアントを訪問	本業から離れたニッチ分野の開拓や、Webサービスの活用など、従来の枠に捉われず、クライアントの新規事業開発を支援

― 印象に残っているプロジェクトはありますか？

O. グローバルPMIプロジェクトと、新規事業開発プロジェクトが印象的です。前者は、デロイト USとの共同プロジェクトで、コンサルタントとして非常に学びが多かったです。後者は、それまでの経験と一線を画す新規事業戦略という新しいチャレンジであり、非常に刺激的でした。

―現在はIT/IoT・新規事業開発関連のプロジェクトを中心に活躍されていますが、どのような経緯があったのでしょうか？

O. マネジャーになるころには、それまでの経験から、グローバル×新規事業開発に対する関心が強くなっていました。グローバルではIoTへの関心が高まっていた時期でもあり、グローバル×新規事業開発の延長でIoT戦略・事業開発案件にも携わるようになりました。

― 様々な経験を経て明確になった自身の志向に合わせてキャリアを選択されてきたのですね

O. 自分のキャリアは自分で選択していくものですが、コンサルタントという業務の特性上、クライアントにニーズがあることが大前提となるので、半分は成り行きでもあります。もちろん、ニーズは作り出すものでもあるので、自分で積極的に動くことも重要です。

― 幅広い案件を経験するという側面では、地方ではチャンスが限られるのではと思われがちですが、実際はどうでしょうか？

O. 日本にいると、どうしてもそのような思考になりがちですが、コンサルティング業界はその限りではないと感じています。「クライアントの課題解決のために最適なチームを組む」という考え方が根底にあるからです。グローバルでは、「プロジェクトがある場所に人が集まる」というロケーションフリーの思考が強く、DTCも例外ではないと感じています。そもそも、西日本には製造業を中心に様々な企業が存在するので、チャンスが限られるということはありませんし、西日本に多いニッチトップの企業は、総じてグローバル志向が強い傾向にあり、グローバル案件も豊富です。

― 今後の抱負を教えてください

O. 業界を問わず、クロスインダストリーが進んでおり、従来の枠に捉われない考え方、事業創出が求められる時代であると感じています。今後も、領域に捉われず、クライアントの新規事業創出を支援していきたいと考えています。

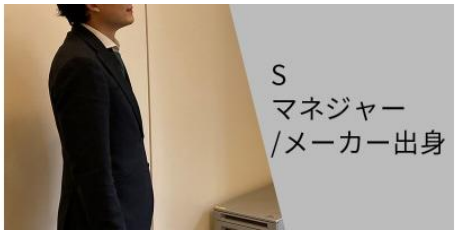
一覧へ戻る　採用ページへ戻る

これまでのキャリアを西日本で活かす

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

DTC Region Unitには、他業種の経験者も多く、様々なバックグラウンドを持つ人々が働いています。
SE出身のNさん、メーカー出身のSさん、通信業界出身のWさんにお話を伺いました。

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



― DTCに入社されるまでの経緯を教えてください

N. 大学卒業後、日系SIerの流通部門にてSEとして働いていました。その後、より広い世界を見たいという思いから、コンサルティング業界に転職し、海外留学などを経て、DTCに入社しました。

S. 私は新卒でメーカーの設計開発部門で働いたのち、DTCに入社しました。ちょうど景気の落ち込みに伴い、会社は難しい経営判断を迫られ、開発部門にも方針転換の波が迫っている時期でした。その中で「ビジネスや研究開発の充実は盤石な経営があってこそ」と感じるようになり、コンサルタントに。ずっと関西で働き続けたいと考えていたところ、西日本地域に強いDTCの存在を知り、今に至ります。

W. 私は通信会社でサービス開発に従事したのち、DTCに入社しました。自分の成長に限界を感じ、より個人としてのスキルや課題解決能力を伸ばしたいという考えがありました。

― 異業種から転職して驚いたことや戸惑ったことはありますか？

N. コンサルタントになって最も驚いたことは、これほどまでにクライアントに寄り添うのかということです。深くクライアント企業に入り込み、パートナーとして徹底的に一緒に考えることの深さと濃さに驚きました。

S. 転職当初は、すべてに戸惑いました。今から振り返ると0点だったと思いますし、今も明確な自信が持てているわけではありません。ただ、戸惑いも大きかったですが、クライアントと対峙する楽しさが上回り、今もコンサルタントを続けています。

W. 私はプロジェクトごとにテーマが変わっていく点に戸惑いました。例えば、同じシステム開発案件でも業界が異なれば要求も異なり、検討事項も変わってきます。また、これは業務というより働き方に関してですが、私が想像していたよりはるかにホワイトな職場でした。これは嬉しい驚きでした。

― 前職（異業種）での経験はコンサルタントの業務に活かされることがありますか？

S. やはり現場を知っているというのは大きな強みだと思います。私の場合、製造業の聖域であるモノづくり（開発）の現場を知っていたことで、より地に足がついた議論をしやすく、大きなアドバンテージとなりました。このような視点は、コンサルタント出身者が身につけるのに苦労する点でもあるので、異業種転職のメリットと言えるのではないでしょうか。

― コンサルタントとしてのやりがいはどのようなときに感じますか？

S. 私たちが対峙することが多い経営層の方々は、企業を背負い、日々、大きなプレッシャーにさらされながら意思決定されています。もちろん、業界経験も長い方々です。そういった方々に提案・意見を受け入れられた時などは、少しでも力になれたのではないかと大きな喜びを感じます。

W. 私も同様に、自分の提案がクライアントに響いた際には大きな喜びを感じます。また、テーマが異なるプロジェクトが、自分の成長速度を上げていると感じています。成長スピードと引き出しは、転職後の方が増加しましたね。それらも大きなモチベーションになっています。

― 異業種からコンサルティング業界への転職を考えている方に一言お願いします

S. 異業種転職は戸惑いも多いと思いますが、コンサルティングファーム出身者にはない強みもあります。西日本が好きで、ビジネスに興味があり、変化を楽しめる。そういう人にはDTCは最適な職場ではないでしょうか。

W.「異業種から転職してやっていけるのか」という不安はよく理解できます。DTCではサポート体制も整っていますし、DTCはメンバー含めた職場環境も明るく、申し分がありません。私自身、DTCでの経験を経て、確実に成長している実感があります。不安を解消できる体制は整っているので、ぜひ、挑戦してみてください。

N. DTCには個々の事情に配慮しつつも性別に関係なく活躍できる環境が整っていると思います。意欲とコミットがあれば何でも挑戦できる環境があります。ぜひ、飛び込んでみてください。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

Region Unitで描く新卒入社後のキャリア

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

DTC Region Unitは、関西（大阪/京都オフィス）と九州（福岡オフィス）にて新卒採用を行っています。
新卒採用でRegion Unitに入社し、福岡オフィスに所属しているアナリストのNさん（2023年新卒入社）に
Region Unitを志望した理由や入社後の環境について伺いました。

― Region Unitに新卒入社されるまでの経緯を教えてください。

N. 私は静岡県で生まれ育ち、関東の大学に入学しました。大学時代に佐賀県の地域づくりをテーマに研究していたことをきっかけに、九州に定期的に訪れるようになり、九州の居心地の良さに惹かれ、福岡にIターンをして就職をすることを決めました。Region Unitには、私以外にもIターンで就職された方が多く所属されています。

― どうしてDTC（Region Unit）に入社しようと思ったのですか。

N. 大学時代から地域づくりを研究していたこともあり、「まち」に関わる公共系の仕事をしたいと考えていました。学生時代は地域に根付いたボトムアップ型のNPOに携わってきましたが、自治体と対等な関係で地域のことを一緒に考えていけるような立場として地域と関わることができるコンサルタントを志すようになりました。
DTCの中でもRegion Unitを志望した理由は２つあります。１つはコンサルティングファームの新卒採用では珍しく、関西・福岡の両拠点で独自の採用活動を行っており、勤務地を選ぶことができたことです。２つ目は地域に根差した拠点があることで、公共系の案件に参画しやすい環境であったことです。

― 入社後はどのような案件を経験してきたのですか。

N. 入社後、約2か月半の研修を経てから現在までの7か月の間に、①基幹システム更改案件、②再生エネルギー系戦略案件、③地域脱炭素推進案件の3つの案件を経験しています。現在は、入社時から志望していた「まち」に関わる仕事ができています。

― 新卒入社後のフォローはどのようなものがありますか。

N. DTC全体としては、代表的なフォローの制度として、①約2か月半の入社時研修と、②プロジェクトマネージャーとの定期的な面談（プロジェクトにおける目標設定やパフォーマンスレビューを実施）、③先輩社員によるコーチ面談（プロジェクトのアサイン希望や、中長期のキャリア相談等を実施）、などがあります。

加えて、Region Unit独自の取組みとして、ビジネスマナーやITスキルなどの研修があります。また、コーチは基本的には同じオフィス所属の方が担当するため、対面での相談の機会も十分に取れます。

― 別オフィスや他の法人（監査法人など）との交流機会はありますか。

N. プロジェクトで別オフィスの方と同じチームになることはよくあります。私も今のプロジェクトでは東京所属のマネジャーの下で働いています。また、採用・人材育成などのタスクフォース活動では、関西・福岡のメンバーが協力をしながら活動をしています。同期のプライベートでの交流もあり、関西と福岡の同期が集まる機会もありました。他法人との交流としては、オフィスごとに懇親会が企画されたり、有志の若手社員同士で情報交換のための交流がおこなわれたりしています。福岡オフィスでは、複数法人合同のボーリング大会やフットサルサークルなどがあり、そのような場での交流も盛んにおこなわれています。

― Region Unitへの新卒入社を検討されている方に一言お願いします。

N. Region Unitは関西・福岡だけの案件をやっているわけではなく、全国各地、ときには海外の案件もできるような環境です。関西・福岡を拠点にしながら働くことに興味のある方がいれば、ぜひRegion Unitを受けてみてください。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

Globalに働く① - 西日本から世界へ！

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

やりたいことを、やりたい場所で、西日本から―。Region Unitでは、国籍を問わず、様々な人々が、様々な場所で働いています。入社直後から海外案件を担当したコンサルタント Hさんにお話しを伺いました。

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

― DTCに入社されるまでの経緯を教えてください

H. メーカーの海外営業、ITシステムの導入コンサルタントを経て、DTCに入社しました。システム会社時代は、クライアントの課題解決のために自社製品しか提案できない点に歯がゆさを感じていたので、より広く、自由にクライアントの課題解決のために働きたいと考え、コンサルタントを志望しました。社会人になってからは、一時東京で働いていたこともあるのですが、やはり地元関西で働きたいという思いがあり、西日本地域で強いDTCを選びました。

― Hさんは、海外案件も経験されていますが、もともと海外に対する関心が高かったのでしょうか？

H. 自分の強みの一つに、語学力があると考えており、アピールはしていました。強い志望があったわけではありませんが、英語のほか、大学院時代に習得した韓国語も、機会があれば活かしたいと考えていました。

― 実際にはどのような海外案件を担当されてきたのでしょうか？印象的な案件はありますか？

H. 入社直後に担当した案件です。関西のあるメーカーの案件で、アジアを中心に、新しい業務システムをグローバルに展開するものでした。作業場所は大阪のDTCオフィスでしたが、日常的にオンラインで海外と会議があったほか、1か月のうち1週間程度は現地への出張もありました。

― 実際に海外案件を担当してどうでしたか？

H. スキル（語学力）を活かすことができたことはもちろんですが、現場の商習慣を肌で感じられたことは、自分のキャリアにとって大きな資産になったと思っています。海外営業時代は、現地の方々はあくまでも顧客でしたが、コンサルタントとして関わったことで、現地メンバーは顧客ではなくチームになりました。現地により深く入り込んで活動したことは、とても刺激的な経験でした。

― 逆に驚いたことや戸惑ったことはありますか？

H. もちろん、驚いたこともたくさんありました。海外では時間通りに会議が始まらないことも多いですし、日本では考えられない理由で遅延になったりします。一番驚いたのは、スモッグがひどくて車が走れないから会議の開始を待ってくれと言われたときでしょうか…理由がスモッグなので、何時から会議を始められるか読めなくて困りましたね。結局、別日に再調整しました。

― 他にはどのような形で海外に関わってこられたのでしょうか？

H. 出張という形以外にも、あらゆる場面で海外に関わる機会があります。競合他社との比較などはどのような案件でも必要とされますし、多くの場合、競合には海外企業が含まれるものです。また、自分が担当している案件以外でも、語学力が必要な際に、現地とのインタビューに呼ばれることもあります。最近は、Region Unit内のグローバル人材育成プロジェクトにも携わっており、語学学習のサポートから、海外案件に関するナレッジの紹介などの活動も行っています。

― 今後の抱負を教えてください

H. 海外案件でも国内案件でも、コンサルタントとして顧客を理解し、顧客の課題を解決していくということに変わりはありません。ただ、海外案件の場合、顧客理解によりスキルと幅が求められると考えています。それが海外案件の難しさであり、面白さだと感じています。今はコンサルタントとして、与えられた案件を遂行する立場ですが、今後も海外案件を含めて経験を積み重ね、自分で案件を獲得する立場になった際には、積極的に海外案件を獲得していきたいと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

Globalに働く② - 世界から日本へ！

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

やりたいことを、やりたい場所で、西日本から―。Region Unitでは、国籍を問わず、様々な人々が、様々な場所で働いています。インド出身のコンサルタントAさんに、DTCで働く魅力を伺いました。

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

― DTCに入社されるまでの経緯を教えてください

A. 研究のため、大学院時代に来日しました。専攻である化学工学の分野で有名であったこと、母国インドとの関係も深かったことから、日本を選びました。印日の懸け橋になりたいという思いを持つ中で、研究よりもビジネスに関心が移り、化学メーカーを経てDTCに入社しました。

― DTC Region Unitを選ばれた理由は？

A. 印日の懸け橋になるという自分の目標を実現するためには、グローバル、インドでの仕事が望めることが重要でした。その意味で、グローバルファームであるデロイトであれば、自分の希望を叶えることができると思いました。また、デロイトはインドでも有名で、インドの家族も安心してくれました。DTC Region Unitを選んだのは、化学系のメーカーが関西に多かったからです。DTC Region Unitであれば、関心がある化学系のメーカーの海外支援など、印日双方に携わる仕事ができると考えました。

― 入社後はどのような案件を担当されていますか？

A. 入社直後から、メーカーのグローバル案件を担当しています。案件の性質上、英語が主言語となっているので、海外出身の私がコンサルタントとしての基礎を学ぶのに最適な環境であると考えています。

― 日本で働く中で大変なことや戸惑ったことはありますか？

A. やはり空気を読むというのは、日本でビジネスをするうえで重要なスキルであり、海外出身者が最も戸惑う点であると感じます。新卒時代や転職直後は、ビジネススキルに加えて、ベースである日本の商習慣や「空気を読む」という文化的なスキルも学ばなければなりません。海外出身者が総じて苦労する点ではないでしょうか。

―AさんにとってRegion Unitで働く魅力はどのような点にありますか？

A. 自分のキャリアパスがインドにつながっている、印日の懸け橋となりたいという自分の夢に近づいていると感じられることが大きいです。また、海外出身者が日本で働く際に特に不安に感じる点に、言葉と家族の問題があると思いますが、グローバルファームのデロイトであれば、その心配がない点も重要です。海外案件も多いので、まずは英語案件などで経験を積むことも可能ですし、社内には様々な国の出身者が在籍しており、気軽に相談できる環境にあります。メーカー時代は、やはり外国籍の社員が少なかったので、心強いです。

― 今後の抱負を教えてください。

A. コンサルタントとして成長して、いつの日かインドに関わる仕事がしたいと考えています。プライベートでは、母国にいる家族ともっと会う機会を増やしたいと考えています。DTCであれば、家族皆で日本で暮らす、自分がインドに帰国するなど様々な選択肢が実現可能だと思うので、海外出身の先輩方や、自分の家族と相談しながら、ビジネスでもプライベートでも自分の夢を叶えられるようにしたいです。

― 海外出身者の方に一言お願いします

A. 日本で働きたいと考える海外出身者の方には、母国と日本の懸け橋になりたいという希望を持っている方も多いのではないでしょうか。そして、それと同時に日本で働くことへの不安も大きいと思います。少なくとも自分は、DTCで働く中で不安は軽減されましたし、自分の夢に向かっていっているという実感があります。東京だけではなく、製造業を中心に様々な企業が集う西日本地域にも強いので、自分の興味関心を活かすこともできるのではないでしょうか。ぜひ、一緒に働きましょう！

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

DTC Region Unitに所属するとあるコンサルタントの1日

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

リモートワークが導入・推進される中、1日のスケジュールをご紹介します。生活スタイル面では、自分の裁量で時間に融通を利かせられるメリットがあります。

コンサルタントの1日～シニアコンサルタント／中途入社（3年目）／通信業界出身

9:00　朝の支度／子供の送迎

- 子供の幼稚園への送迎のため、一時的に離席する

9:30　チーム内でのタッチポイント

- プロジェクトの進捗確認や本日の作業内容の意識合わせを行い、1日のタスクとゴールをチーム内の共通認識として整理する
- 優先順位の確認やクライアントMTGでの役割分担を行う

10:00　リサーチ・書類作成

- プロジェクトのテーマに関する市場動向のデスクトップリサーチや書籍等を基に、仮説の構築や論点整理を図る

12:00　昼食・休憩

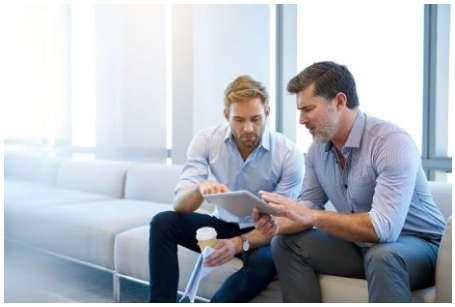
- スマートワークであるため、自ら作ったり、周辺に買いに出かけたり、それぞれ休憩時間を取得する

14:00　クライアントとのミーティング

- 本日は市場動向や競争環境の整理、有識者へのインタビュー結果を報告し、クライアントが向かうべき中期的な方針のディスカッションを実施する
- 新たな論点も見えてきたため、今後のプロジェクトの方向性を整理する

15:00　コーチ面談

- 2週間に1度程度、自身のコーチと会話する機会を設け、プロジェクトだけでなく、プライベート等、様々な話題や悩みを共有する
  ※マネジャー以上がコーチとなり、スタッフの先導役を担う



15:30　社内のタスクフォースへの参加

- クライアント向けプロジェクトワークとは別に参加している、全社横断の最新通信技術に関する研究チームや対外エミネンス活動に参加し、ナレッジの蓄積や社内活動のサポートを実施する

16:00　次回ミーティングに向けた準備や資料作成

- 1日のMTGが一段落し、自身のタスクを整理する
- 次回のMTGに向けたタスクの確認や有識者のリストアップを実施する

18:00　業務終了・夕食

- タスクが落ち着いたところで業務終了し、家族と夕食

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

DTC Region Unitでの多様な働き方

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

Region Unitのメンバーは、オフィス勤務・スマートワークのように多様な働き方を選択しながら、西日本での生活を満喫しています。スマートワーク中心のTさん、オフィス勤務中心のOさんに働き方や休日について伺いました。

主な働き方・スケジュール

T. 私は現在完全にリモートワークで、自宅で働いています。日中～夕方はミーティングが入ることが多いですが、夕方以降は極力ミーティングを入れないよう調整し、家族との時間と決めています。子どもがまだ小さいため、家事と育児を夫婦で分担して行います。

O. 私は週3、4日ほどクライアントオフィスに行っています。オフィスに行く日はクライアントとのミーティングが主な目的です。オフィス滞在時間を自由に選択できるため、ミーティング後は少し早めに帰宅し、夕方は自宅で作業することで、通勤ラッシュを避けて移動しています。

スマートワーク・オフィス勤務それぞれのメリット・デメリットの克服法

T. メリットは2つと考えています。1つ目は、移動時間の制約がないので仕事と家庭のタスクが瞬時に切り替えられること。2つ目は場所を選ばずにコミュニケーションが取れること。こまめなコミュニケーションを心掛け、メンバー同士の定例会議を毎日設けています。メンバーの連携強化の目的もありますが、各自の状況を確認し合い、特定のメンバーの負荷が高くなっていないか確認する場としても活用しています。デメリットは運動量が減ってしまうことです。対策として朝、仕事前に15～20分の散歩やジョギングを毎日行うようにしています。

O. メリットはコミュニケーションの取りやすさ、細かな部分も含めた確認のしやすさです。プロジェクトの性質上、クライアントの製造現場を見せていただく必要があるのですが、オフィスにいれば「今から見に行きましょうか！」という流れになりやすいです。デメリットとしては通勤ですね。時間を圧縮することはできないですが、時差出勤を心掛けています。

Region Unitならでは？休日の過ごし方

T. 私の住まいは中心街から約2時間という田舎ということもあり、自然が豊かな環境です。ですから休日は広々とした公園でピクニックやBBQなど屋外アクティビティを家族で楽しむことが多いですね。スーパーの食材も地元の新鮮なものが多く、それを使って料理をするのも楽しいです！

O. 夫婦の実家がともに同じ市内と非常に近いため、お互いの実家を行き来して家族で過ごすことが多いです。子どもがまだ小さいのですが、関西圏は歴史豊かな観光地も多いため、もう少ししたら近郊の旅行にも連れていきたいです。

西日本エリアでの勤務を検討されている方へメッセージ

T. クライアントへの貢献を最大化するにあたり、どんな働き方が自分にとって最適か、上司と相談・調整のうえ選択できる環境がDTCでは整っています。私の場合はのびのびとした環境で生活・子育てをしたかったのですが、田舎の住まいに移っても変わらずプロジェクトに参画できており、非常にやりがいを感じています。

O. 私も以前は他の地域で働いていたのですが、家族が増えることがきっかけで出身地・関西に戻りたいという思いが強くなりました。コンサルティング業界は東京中心の企業も多い中、西日本を軸にして働く選択肢があるDTCは魅力ではないでしょうか。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

コンサルタントと子育ての両立

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

Region Unitには、コンサルタントとして従事するとともに、家庭では“お父さん”、“お母さん”として活動するメンバーが多数在籍しています。ここでは、コンサルタントと家庭の両立をしているMさん、Wさんお二人の生の声をご紹介します。

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Mさん(男性)　職位：マネジャー

Region Unitでは、育児休暇取得の流れが根付いてきています

－　普段、どのように仕事と子育てを両立していますか

平日は妻に任せることも多いですが、毎朝の絵本の読み聞かせや、
夕方以降のお風呂や寝かしつけなどは私が担当していることが多いです。
子どもに合わせて生活をすることで仕事にもメリハリができたと感じています。

－　会社の制度として活用した制度はありますか？

子どもが生後3ケ月で育休を取得しました。日に日に成長する子どもの姿を見られるとともに、子育ての大変さを感じられたので仕事に復帰してからも家事の負担を分散できるよう、特に休日において積極的に子育てに関わっています。Region Unitでは育休を取得する社員が多く、“育休制度”が形骸化されることなく良い文化が先輩から脈々と受け継がれていると感じています。

－　子育てとコンサルタントの両立を目指す皆様にメッセージをお願いします

はじめは両立に不安を感じる人も多いかと思いますが、実際に子どもが生まれると大変さ、苦労はあまりなく、子育て自体がとても楽しいです。子どもの成長という新たな刺激をもらい、“日々の生活に楽しみが増える”と感じてもらえたらと思います！

Wさん(女性)　職位：シニアコンサルタント

スマートワークや会社制度等を活用して、仕事・子育ての両立を楽しんでいます

－　普段、どのように仕事と子育てを両立していますか

DTCとして会社が用意しているワーキングプログラム(WP)を利用して、
9:30-17:00の時短勤務としています。保育所への送り迎えは夫が
担当しているので、私は日中の仕事に集中して、終業後に家事や
子どもの世話をするといった日々を過ごしています。

－　社内イベント等で役にたったものはありますか？

全社でオンラインでの育児者交流ランチ会なども定期的に開催されており、
スマートワークの中でも仕事と子育て両立のtipsが得られたり、相談などもできるため、励みになっています
制度だけでなく、一緒に働く上司・同僚の“マインド・ソフトスキル”にも非常に助けられています。会議時間の設定や、
担当するプロジェクトなど、配慮いただいているように感じてます。

－　子育てとコンサルタントの両立を目指す皆様にメッセージをお願いします

私も当初は、コンサルタントの仕事と、出産・育児の両立は難しいのではないか考えていました。しかしながらその状況になってみると、会社の制度や周囲のサポートも受けながら、案外と両立できるものです。ユニット内でお互い助け合いながら、仕事に家庭に充実した日々を送りましょう。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

支えあうTask Force(TF)、つながる部活動

【デロイト トーマツ コンサルティング（DTC） Region Unit】

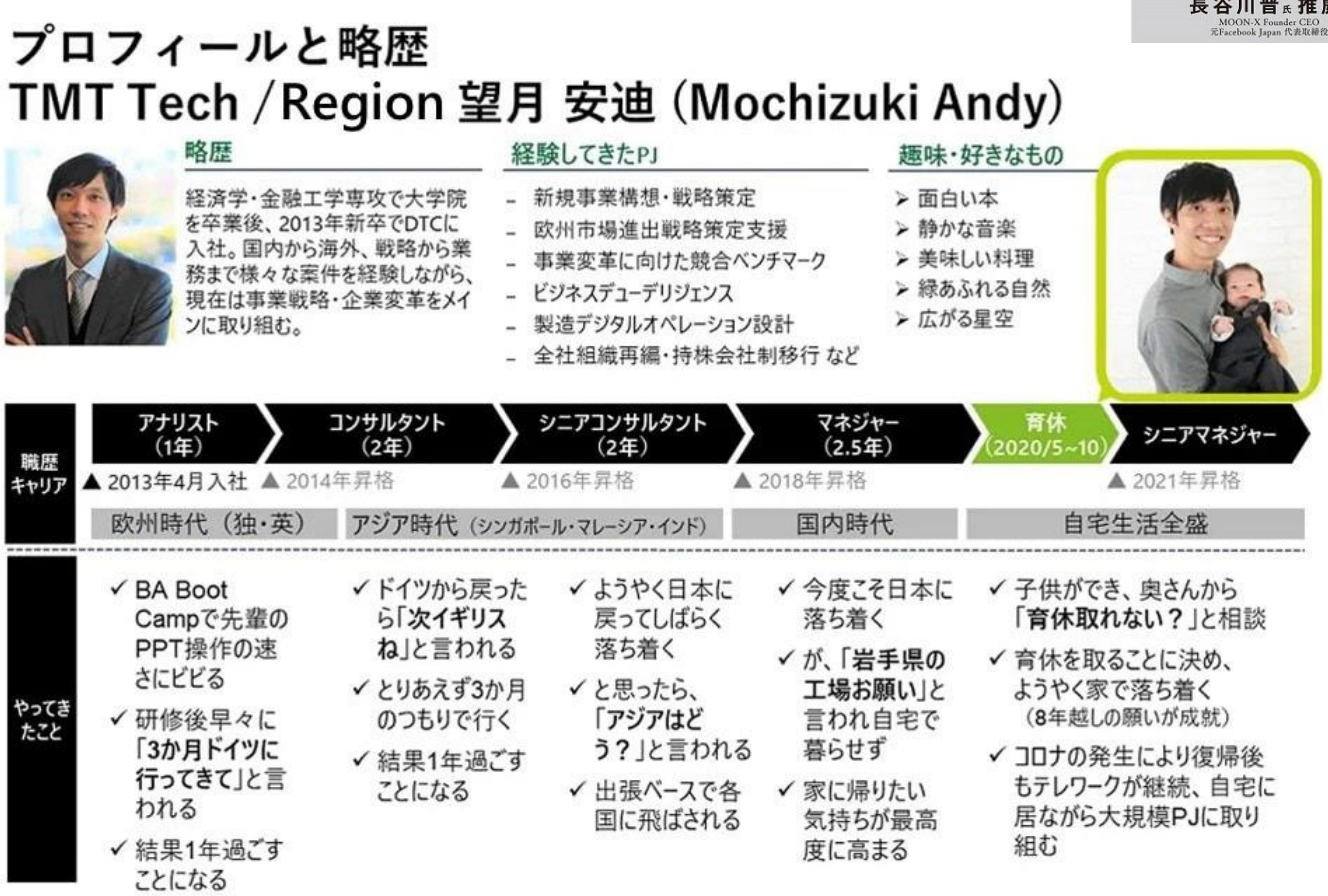
DTC Region Unitでは、プロジェクト活動以外でも社員同士が自由につながり、助け合える場を、提供することで、気持ちよく働くことのできる職場づくりに努めています！

Task Force活動も盛んに行われ、Region Unitがもっと良くなるよう、改善を続けています

Value Up TF

Value Upでは、クライアントへの価値提供力強化を目的に様々な取り組みを企画・実行しています。

例えば、コロナ禍で減ってしまった先輩コンサルタントとキャリアを語り合う機会を作るべく、座談会を開催し、自らのキャリアやスキル向上の道標を提供しています。実際に、書籍『目的ドリブンの思考法』を執筆したDTCメンバの望月安迪さんとの懇親会を開催し、本の内容について皆で質問＆ディスカッションしました。



Enjoy TF

Enjoy TFでは、参加自由で皆が楽しめるイベントの開催やスタッフ間のネットワーキングをサポートしています。

例えば、「合宿で一緒だったあの人！」という気持ちをきっかけに、プロジェクトや役職関係なくRegion Unitが一丸となって協力し合える働きやすい環境づくりに向けて、仲を深めるための懇親会やRegion Unitの未来を考えるワークショップを開催しました。

グローバル人材 TF

世界の食文化やコミュニケーションについて、多様なバックグラウンドのメンバーが各国の特徴や経験を共有し、世界へ視野を広げる機会を設けています。特に、グローバルプロジェクト事例紹介は、現地の働き方やプロジェクトマネジメントのコツも学べるため人気です。過去には、それぞれの国の食事も用意し各国の文化を体験しながら、学べる場を提供しました。

Region Unit独自に部活動も進めており、プロジェクト活動以外でも仲間を増やすことができます

サイクリング部

役職問わず幅広いメンバで綺麗な景色を楽しく走り抜けています。体力に合わせてサイクリングコースの部分参加も大歓迎で気軽に活動しています！

フットサル部

隔月開催を目標に、大阪市内のフットサル場で活動中です！部員は楽しく/無理なくをポリシーに活動しています。気軽に飛び入り参加も大歓迎ですが、正式な入部者には名前入りユニフォームを作成しています。

ほかにも・・・

ワイン部や釣り部から洗車部まで、多種多様な部活動が運営されています。ぜひ入社後は気軽にご参加ください！

Region Unitでは、プロジェクト内外でのメンバ間の助け合いだけでなく、子育てとの両立など多様な働き方に向けた制度も充実しております。下記関連リンクをぜひご参照ください。

- DTC Region Unitでの多様な働き方
- コンサルタントと子育ての両立

一覧へ戻る　採用ページへ戻る